

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	横浜ゴム㈱新城物流センター	階数	地上2F
建設地	新城市一鍛田字大入10番6地	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条区域	平均居住人員	27人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年11月 予定	評価の実施日	2014年5月7日
敷地面積	37,400(仮想敷地) m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社
建築面積	22,943.04 m ²	確認日	2014年5月8日
延床面積	23,134.69 m ²	確認者	原田玲二



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 76%

③上記+②以外の 76%

④上記+ 76%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>3.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>50.1 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	50.1 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	50.1 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出
 ④地域材の活用
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

2.4 信頼性				3.0	0.19			
1 空調・換気設備				3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3 電気設備				3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性				4.4	0.48			4.4
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			
1 階高のゆとり			階高:9.0m	5.0	0.60			
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率:0.045	5.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり			15,000N/m ²	5.0	0.31			
3.3 設備の更新性				3.6	0.38			
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性			ケーブルラック、EPS、保護管、天井点検口	5.0	0.11			
4 通信配線の更新性			ケーブルラック、EPS、保護管、天井点検口	5.0	0.11			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			
6 バックアップスペース			敷地内にバックアップスペース	4.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			2.4
1 生物環境の保全と創出	●	③		3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		2.0	0.40			2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.6
LR1 エネルギー				-	0.40			3.8
1 建物の熱負荷抑制				-	-			-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.29			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			LED照明の採用	5.0	0.43			5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)			ERR=71.7%	5.0				
集合住宅の評価								
4 効率的運用				3.0	0.29			3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50			
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.4
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1 節水			節水コマなどに加えて、節水型機器、自動水栓を採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63			3.4
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②	再生骨材の路盤材利用	3.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		躯体+LGS+仕上げ、躯体と仕上げ材が容易に分別・取り外しが可能	5.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22			3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68			
1 消火剤								
2 発泡剤(断熱材等)			発泡剤を用いた断熱材等を使用していない	5.0	0.50			
3 冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30			3.5
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物(参照値)に対して76%	3.9	0.33			3.9
2 地域環境への配慮				3.3	0.33			3.3
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制	●			3.0	0.25			
3 交通負荷抑制				3.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	1.00			
2 振動	●			-	-			
3 悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制								
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうら光に漏れる光への対策			「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目の過半を満たす	5.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 イニシャルコスト最小限を最優先に考えつつ、省エネ機器を採用する等、ランニングコストの削減も見越せるものを積極的に取り入れる。植栽もできる限り多様性に富んだ計画としている。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 -
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 補修必要間隔の長い外壁材、仕上材、配管材を採用するなど、建物の耐用性・信頼性に配慮している。 また、階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。 視線を遮らない様な植栽など防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 自動水栓などの省水型機器を用いるなど、水資源を保護している。 発泡剤を用いた断熱材を使用しないなど、汚染物質含有材料の使用を回避している。 また、OAフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物(参照値)に対して76%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。 燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 -